作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	竹村明洋
所属機関名	工学部機械システム工学科
職位	講師
在籍年	5 年

教育の責任

（講義）

・情報リテラシーや力学 II 等の基礎科目を主に担当中．専門科目は実験が主．

・基礎科目の指導が中心であることから専門科目を理解する・卒論や実験レポート作成のために必要な基礎知識を修得させることが求められると考える．

（研究）

・ものづくりを主体とした社会に還元できる研究を主軸に実施したい．

・卒論等の研究活動を通した教育は機器の修得や理論の理解よりも，社会人としてのマナーや倫理等を指導することに重きをおく．相手がある等，人と関わることを念頭に第三者に真摯に，相手の立場に立った姿勢が身に着く指導が求められると考える．

教育の理念

（講義）

・単位取得後も大学生活における復習ができる環境の整備，さらに社会に出た後でも大学での学びを復習し，仕事に活かせる環境作りを目指す．

（研究）

・モノづくりを通した社会に貢献できる技術及び社会性を有した人材の育成を目指す．

教育の方法・方針

（講義）

・教科書復習用の資料を作成し，配布する．資料は教科書を補足する内容にする．

・演習問題を自作し，配布する．講義中に演習した後に解答解説を行い，実践から解答を理解できる内容にて実施する．

・講義資料はいつでもどこでも入手が可能になるように GoogleClassroom 等を利用して随時公開する．

（研究）

・機器を独占しない，退室チェックを行う，マナーを守る，時間を守る，相手が分かるような説明を心がける，成果や結果は共有する，報告・連絡・相談は必ず実施する，等の社会人として当たり前のことを徹底し，身に着けてもらう．

教育の成果

（講義）

・授業評価アンケートは概ね常に評価が高かった．特に，講義へのやる気を感じられるという項目は常に高い評価が出ていた．

・一方で，講義進度が速い等の低評価もあった．

・なるべく多くの情報を伝えようとするためか，連絡の伝達が完了していない場合があった．

（研究）

・相手の立場にたった考え方や説明の姿勢が身に付き，わかりやすいプレゼンなどが自然にできるようになった．特に，大学院生 2 名は全国講演大会での発表で東京大学や大阪，東北大学，九州大学等の学生に交じった発表でも直近 2 年連続で賞を受賞し，高い評価を受けた．

今後の目標

（講義）

・着任 6 年目になるが，着任後毎年受け持ち講義が変わる状態になっていた．受け持ち講義が 2024 年度で落ち着くため，講義運用を軌道に乗せられるように運用と準備，補足を行う．

（研究）

・大学院生の受け持ちを増やし，研究活動を通した成功体験をしてもらえる学生を増やす．

・学生が研究室に行きたいと思えるような研究室を準備する．

根拠資料

・授業評価アンケート

・ISIJ 第 185 回（https://www.isij.or.jp/meeting/2023spring/student-poster.html）と第 187 回（https://www.isij.or.jp/meeting/2024spring/student-poster.html）の春季講演大会学生ポスターセッション受賞者一覧と，受賞者の一覧記載の学会誌